

MSW通信 2024.3月号

発行日 2024年(令和6年)3月31日

発行者 高知県医療ソーシャルワーカー協会

事務局 高知市本町4丁目1番37号丸ノ内ビル内 高知県社会福祉センター3F

FAX: 088-871-5100

事務局 E-mail: kochi_msw2017@yahoo.co.jp (お問い合わせ・各種届)

MSW 通信部会 E-mail: kochimsw@yahoo.co.jp (MSW 通信への記事投稿)

会報部会 E-mail: kaihou_kochi@yahoo.co.jp (会報 医療社会事業への投稿資料提供)

URL: <http://www.kochi-msw.com/>

ご案内

●「令和6年度総会・診療報酬改定学習会」のご案内

日時: 令和6年5月25日(土) 13:30~

会場: 高知県民文化ホール第6多目的室

内容: ①診療報酬改定学習会(90分)・②令和6年度定期総会

4年ぶりのリアル対面開催です。多くの方のご参加をお待ちしています。ご参加される方は新たな出会い交流に向け名刺をご持参ください。

「診療報酬改定学習会」

【講師】浜田 正道氏 高知保険医協会事務局次長

~今回の診療報酬改定のポイント、ソーシャルワーカーに関連する項目等の説明~

★「会報部会より皆様へ」3つのお願い

投稿資料提アドレス kaihou_kochi@yahoo.co.jp

・毎年連載している会員の活動報告「学会発表・研究実践報告・講演等」について、今年も掲載紹介させていただきます。令和5年度に活動された方は是非とも資料提供ください。

送り先は上記の会報部会メルアドまでお願いします！

・現在編集作業中の「医療社会事業No.63」への**広告掲載協力**のお願い！詳細は当協会ホームページをご確認ください。皆さんの所属機関の広報から関係機関の広告掲載までお待ちしております！

・同じくNo.63への「**会員職場紹介**」掲載のご案内！掲載費用無料にて会員特典の所属機関の広報ができます！今年の診療・介護報酬改定におきましても、これまで以上に病病連携・病介連携の重要性が示されました。会員お互いによく知り合いましょう！

●「協会年会費 直接入金をお願いします」

今年度会費を直接お振込み予定で未納の方につきましては、急ぎご入金いただければ幸いです。
よろしく願いいたします。

年明けに再度口座振替を実施いたします。新たに振替手続きを希望される方は、上記の事務局アドレスへ「振替希望・書類送付先の郵便番号、住所、所属機関名、氏名をご連絡ください。

会費振込口座

- ・銀行支店名: 四国銀行 上町支店
- ・口座名義: 高知県医療ソーシャルワーカー協会会長中本雅彦
- ・預金種別: 普 通 ・口座番号: 5110175

★「協会事務局へのお問合せ方法についてお知らせ」

当協会への各種お問合せ方法につきまして、以下のとおりです。

ご理解の程、宜しくお願いいたします。

(協会事務所は原則職員不在となっています。)

郵送又はFAX 又はメール(上記のお問合せまで)

報 告

『理事会』

【日 時】令和6年3月14日(木)

【開催方法】オンライン(ZOOM ミーティング使用)

【参加者】理事：中本・佐々木・高原・島村・森田・永田・秋田・島田・藤井・永田・荻野

出席理事：11名 理事会成立

監事：山光

事務局：福島・村松

【議 題】

1. 部会活動報告(事業計画・報告 検討)

① 社会資源調査研究部会(森田理事) R6年2月29日(月) 17:30~18:00 リモート開催

・社会資源部便りについて 3月掲載→北川村、日高村

・次年度の取り組みについて理事会より提案あり、3月部会で検討(特徴ある取り組みをしている市町村、社会福祉協議会から講義等)

次回部会：令和6年3月28日(木) 17:30~

② 生涯研修部会(秋田理事) R6年2月21日(水) 19:00~20:00 リモート開催

・基礎研修医療コース振り返り 開催日：2/3(土) 13:30~受付開始 会場：近森病院管理棟3階 会議室1

参加者：22名 ①アルコール 海辺の森ホスピタル 笠井秀夫 Dr(60分) ②在宅医療 やまと診療所 西村真紀 Dr(90分) 対面開催 オンデマンド配信トライについては来年度持越し。他職種にも聞いてもらえると良い内容。今後他職種への案内方法も検討。受講者からも質問・感想が多くあった。

・新人フォローアップ研修 開催日：3/2(土) 14:00~16:40 会場：コミュバ(高知市帯屋町)

講義：ソーシャルワークの実践と課題(グループワーク)

講師：山本三千子氏 参加者：7名(P協会からは参加なし) → 次回3月部会で振り返り予定。

次回部会：2024年3月27日(水) 19時~

③ 月例会部会(市原理事) 令和6年3月5日(火) 高知県医療ソーシャルワーカー協会事務局にて開催

・令和6年度の計画 行政説明会 日程(仮) 令和6年6月22日午後 依頼先：福祉課、介護保険課 3月末までに打ち合わせ予定

・企画案 スーパービジョン：県立大学生の実習報告：社会資源部会とのコラボ 秋~1月頃で検討

・部員募集について 通信掲載、MSW協会のライン共有、6月行政説明会で部員募集検討

次回部会：令和6年5月14日(火) 18:30~

④ 会報部会(佐々木理事) 令和6年2月16日(金) 19:00~20:00 高知県医療ソーシャルワーカー協会事務局にて開催

・第63号について：担当者 巻頭言：高原氏 専門研修：中屋氏 大会報告：小川氏 会員活動報告：佐々木氏 職場紹介：藤田氏、岡田氏 お楽しみコーナー：吉本氏 温故知新：稲田氏 新入会員紹介：高橋氏、實松志 編集後記：稲田氏

広告依頼先の検討、令和6年7月発送目標

次回部会：令和6年3月15日(金) 予定

⑤ 財務部(佐々木理事)

・年会費の収集状況：最終16件の口座引き落とし処理を実施し、完了10件、残りの6件は声掛け収集

⑥ 大会部会(島田理事)

- ・第61回高知県医療ソーシャルワーカー協会大会 四国ブロック医療ソーシャルワーク高知大会
「身寄りのない人が安心して暮らせるまちづくりを目指して～我が地域での支援体制づくり～」
令和6年3月3日(日) 10:00～16:05 高知県人権啓発センター
参加者 87名
記念講演『意思決定』を支援するということ～身寄りのない方への支援を中心に～
對馬 清美 氏(愛知医科大学病院 医療福祉相談部 技師長、社会福祉士、精神保健福祉士、
日本福祉大学大学院修士)
四国4県より事例発表計7演題
「身寄りのない人への支援に関するアンケート調査」島村勇希 氏(高知県:田野病院)
「身寄りのない人支援『精神科に入院中の患者に必要な支援の一考察』」片岡 春菜 氏(高知県:芸西病院)
「身寄りのない人への支援～家族から支援を拒絶された精神障害のある患者を地域で支援する～」
萩原 雄真 氏(愛媛県:北条病院)
「療養型病院における身寄りのない患者支援について」野本 和嗣 氏(愛媛県:栗林病院)
「最後まで自己を貫いた透析患者」藤澤 孝雄 氏(香川県:キナシ大林病院)
「転居に至る意思決定支援の一考察」津川 靖弘 氏(徳島県:国立病院機構徳島病院)
「離島在住の身寄りのない独居患者に対する支援の一考察」丸山 真由 氏(徳島県:徳島県立海部病院)

⑦ 事務局(広報部会・MSW通信・HP・SNS)

- ・HP更新:4回
- ・ライン更新計2回 研修・トピック情報 ホームページとのリンク内容
- ・通信発行 2月号 2月29日発行 3月12日HP掲載済

2. 他団体関係機関からのお知らせ・案内・名義後援等

- ・オーテピア高知図書館:オーテピア高知図書館広報紙「コトノハ」vol.15
- ・高知県公認心理師会:高知県公認心理師会 設立のお知らせ
- ・(一社)静岡県医療ソーシャルワーカー協会:会報「ソーシャルワーク援助e」
- ・(一社)静岡県医療ソーシャルワーカー協会:令和5年度県民公開講座 令和6年3月23日(土)13:30～15:30
- ・(福)高知県社会福祉協議会:ふくし就職フェア spring 後援についてお礼
- ・高知県立大学社会福祉学部:2023年度社会福祉実習報告
- ・高知県自閉症協会:世界自閉症啓発デー・発達障害啓発機関普及啓発のお願い 啓発週間 令和6年4月2日～4月8日
- ・こせいにあわせたくふう展実行委員会:こせいにあわせたくふう展Ⅱ 令和6年4月7日(日)10:00～16:00
- ・(一社)高知県作業療法士:よさこいニュースNo.147
- ・高知県言語聴覚士会:会報「ことこと」第11号
- ・高知県精神保健福祉協会:「高知 精神保健」第285号
- ・高知県健康政策部医療政策課:R6年度医療ソーシャルワーカーリーダーシップ研修の実施について
研修期間 第1回 令和6年6月17日(月)～6月19日(水) 第2回 令和6年11月18日(月)～11月20日(水)

3. 協会代表者派遣

- ・令和5年度 高知県高次脳機能障害支援委員会 令和6年2月7日(水) 19:00～20:30 中本会長
- ・高知県子ども・福祉政策部長寿社会課:令和5年度第2回高知県介護支援専門員研修等向上委員会 令和6年2月29日(木)18:30～20:30 中本会長
- ・高知県災害リハビリテーション連絡協議会:KORAT 定例会 令和6年3月7日(木)18:00～19:05 中本会長

『研修関連』

新人研修フォローアップ研修参加報告 (近森病院 三浦彩)

日 時:2024年3月2日(土) 14:00～16:40
会 場:COMMUBA
講 義:『ソーシャルワークの実践と課題』
講 師:山本三千子氏
参加者:7名



レポート提出：『1年のまとめと来年度の目標』

研修では「ソーシャルワークの実践と課題」として講師山本三千子氏よりグループワークを中心に講義があった。グループワークでは、自分の考えを言語化すること、人の意見を否定しないことを基本とした。まずソーシャルワークと聞いて連想する色を挙げ、選んだ理由をお互いに想像し発表した。また、色から思い浮かぶ場面(連携や関係づくり)についてそれぞれの意見を共有した。そのほか、隣の人の毎朝 10 時の業務を想像し、自分の業務も思い出しながら、それらが何に対してどんな働きをしているかを考えグループ分けを行った。事例検討では、回復期病棟に入院した A さんが自宅退院するためにはどのような調整が必要かを考えグループで検討した。A さんが持つ強みや課題について話し合い、自宅退院に向けた計画を立てた。研修の最後には自身の 1 年を含めて各自で振り返りを行った。

以下に感想を記す(参加者感想より抜粋)。

- ・色々な病院の SW と対面で話す機会がなかったので、考え方の違いなど分かり学びになった。事例では、色々な視点から意見が出て自分の気付かなかった課題、解決策が出て視点を増やすことができた。
- ・日々の業務の中で、自己覚知を意識する機会があまり無く、このような研修で触れる機会があることで、自分のことを振り返り改めて考えることができたと思いました。事例を通して、自分の業務に通じる内容や今後自分なりにソーシャルワーカーとして何を大事にしていきたいのかを感じることができました。他のソーシャルワーカーの方がどのような考え方を持っているのか触れることができ、良かったと思います。
- ・入職後、初めて対面での研修に参加させていただきました。自己覚知や事例検討など、他院の SW と共有ができ、直接コミュニケーションが図れ、とても楽しく、また刺激にもなりました。今後もこのような機会には積極的に参加させていただきたいと思います。

第 61 回高知県医療ソーシャルワーカー協会大会 四国ブロック医療ソーシャルワーク大会 高知大会 ～身寄りのない人が安心して暮らせるまちづくりを目指して～



～参加者の感想(6名)～

・講演を聞き、身寄りのない(身寄りに頼ることができない)方の「医療同意」について日頃抱いている不安全感を改めて考える機会となった。担当するケースでも、身寄りのないかつ自己決定が困難な患者に対して、医療・ケアチームが医療の妥当性・適切性を判断し、治療方法を選択したり今後の療養体制を整えていくことがある。その判断は患者本人が望むものであったか確認が出来ない中で、これまでは“そうするしかない”“仕方がない”という思いがあった。今回の講演やグループワークを通して、どんな状態であっても患者本人が意思決定出来る人だと思って関わること、患者本人の望む医療や生活がどのようなものか、これまで何を大切に生きてきたのか、SW だけでも立ち止まり思いを馳せ、患者を知ろうとすることが必要だと感じた。今までの自分は「身寄りのない方」という部分に SW の支援の軸を置き、それに関連して起こる問題の解決に行動を向けがちだったと振り返る。身寄りの有無に関わらず、患者が自身で考え決めることを支援出来る SW であれるよう、日々の業務に臨みたい。

(近森リハビリテーション病院 医療相談室 揚田佑佳子)

・いの町地域包括支援センターでは、少子高齢化の進展に伴い、老年人口が増加し、認知症等により判断能力の低下から早期に医療・介護サービスにかかるタイミングを逃してしまっている方の相談を受けることがあります。その背景には、単身世帯や頼れる親族がいない場合が多くみられています。今回、日頃、お世話になっている医療ソーシャルワーカーの方々が集まる研修会に参加させていただくことで、身寄りのない方が安心して暮らせるまちづくりについて、一緒に考え、そして、それぞれの機関で生じている課題を共有することで、色々な気づきをいただけたらと期待して参加させていただきました。講演では、對馬先生より、身寄りのない高齢者の方との出会いから、意思決定を支援するためのガイドラインや ACP シートを作成された具体的な経緯についてお話をいただき、ソーシャルワーカーの仕事の根幹について改めて認識することができました。四国 4 県からの演題発表では、同じソーシャルワーカーであっても働く地域や組織の違いで見えてくる視点や取り組みが異なることがわかり、自分自身の視野が広がりました。グループワークでは日頃、感じている課題などを率直に話し合うことができました。研修を通して感じたことは、身寄りのない方の入院相談の際、医療機関に期待をしすぎていた自分に気が付きました。医療同意は一身専属性が強いということ、死亡時の対応、入院費の支払い、契約、保証人など、求められる役割やそれぞれの関係機関の事情や背景があることがわかりました。今後も円滑な連携を図るために異なる職種の方々と研修会でお顔を合わすことができたらいいなと思いました。参加させていただきありがとうございました。

(いの町地域包括支援センター 主任介護支援専門員 藤田 佳也)

- ・ソーシャルワーカーとして働き始めてから、本人の意思決定を支援することとは何なのか、意思疎通が難しいと思われる状態に陥っているご本人に、自分はソーシャルワーカーとしてどのように、誰と相談して大切なことを決めていけばいいのか…。そういったことに漠然とした不安を抱いていました。悩み過ぎて、意思

決定を支援する事の何が難しいのか自分でも分からなくなっている状況に陥っていました。

今回の對馬先生のお話で、自分が抱いていた疑問点や意思決定を支援していく上で何を考え、何を感じて支援していかないといけないのか、ぼんやりとしていたものが自分の中で明確になった気がします。「意思決定を支援するということはその人の権利を護るということ」そこを軸に考えながらご本人に向き合うようにしていきたいと強く感じました。演題発表では、悩まれながらも多職種連携を取りながらソーシャルワークを実践されている方々の報告を聞くことができ、刺激を受けました。相談を受ける中で、複雑な課題が多いケースも多く、本人の意思決定についてどこまで考えることが出来ているのだろうかと思うことがあります。皆さんの実践報告を励みに、今後の業務に活かしていきたいと思いました。ありがとうございました。

(愛媛県協会 和田 千佳 東温市包括支援センター)

- ・今回、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、約5年ぶりの直接対面開催となりました。四国4県からの参加者に加え、愛知県より對馬先生を講師としてお招きし、日本医療ソーシャルワーカー協会の野口会長にもお越しいただき、計87名の参加が得られました。午前中の對馬先生のご講演で、実際に先生がご経験された1つの事例から国のガイドラインの土台を作り上げられたお話をいただき、ご本人の意思決定を支援するために、権利擁護を忘れずに取り組んでいくことの大切さを教えて頂きました。午後からは、四国4県より、計7名の方に実践報告をしていただきました。支援に悩まれながらも、院内だけではなく、他機関との連携で身寄りのない方の支援に取り組まれているお話が多かったように感じました。對馬先生のお話をふまえ、事例発表を聞きますと、現場での悩みや疑問をその地域の課題として考え、支援の指針となるガイドラインを活用しながら解決に向け取り組んでいくことが、地域での支援体制づくりにもつながっていくのではないかと思います。本大会により、地域の実情に沿った支援体制づくりについて、考察していただくことができ、すべての人々が安心して暮らせるまちづくりの一助となれたのではないかと期待しています。
(永井病院 杉村 純子 大会運営部会 部長)

- ・この度は四国ブロック高知県大会に参加させていただきありがとうございました。本大会に参加し、自身の実践を振り返るとともに、今後の支援へのモチベーションにも繋がりとて有意義な時間となりました。自分自身の身寄りのない方の支援を振り返った時に、疑問やジレンマなど「どうにかならないかなあ」と感じても、日々の業務に追われ過ぎ去っている現状です。對馬先生のご講演は、自身の支援経験から感じた困難さや疑問を周りの支援者まで広げ、困っている声を拾っている。さらにそこから要因を分析し分析結果を地域課題として検討し町のネットワークづくりまで発展する取り組みを聞き、本当に権利擁護支援を大切にしているのだと感銘を受けるとともに、一人で解決できなくても同じ仲間をもった支援者や組織が集まれば解決の糸口になるのだと少しヒントをいただくことができました。午後からの四国4県の事例発表とグループワークでは、「県は違うけど、どこも同じように身寄りのない方の支援で悩んだり難しさを感じているんだなあ」と専門職として権利擁護を大切にしているからこそその悩みなどが共有できたことで仲間意識が一気に強くなった気がします。その中でもそれぞれに工夫して支援されており、身寄りのない方を支援する全員が同じ方向を向いて支援できればそれが身寄りのない方が安心して暮らせるまちづくりの一歩となるのではないかと感じた話し合いでした。本当にありがとうございました。
(香川労災病院 菅田 円)

- ・今回、高知県で開催された四国ブロック医療ソーシャルワーク大会に参加させていただきました。第一部では、對馬先生に身寄りのない方の支援についてのご講演をいただき、成年後見制度とは、権利擁護支援とは何かを改めて考えるきっかけとなりました。当院ではご高齢の患者様が多く、地域の特性が住民同士の結びつきが強いいため、身寄りが全くないというケースが多くはありません。そのためソーシャルワーカーとして成年後見制度を利用する機会が少なく、知識不足な部分がありました。ですが、對馬先生のお話を聞く中で様々な事例や制度の歴史について勉強することができました。印象に残っているのは、先生が話された「どう死ぬかではなく、どう生ききるか」という言葉です。この言葉を常に意識し、自分で意思決定が難しい状況にある患者様に対してもその人の想いを見逃すことがないよう、最善を尽くせる支援を続けていきたいです。第二部では各県から演題発表が行われ、グループワークではそれぞれの病院の機能や日々の取り組みについて話し合いました。今まではオンラインでの研修会や学会が多く、100人近い方々の前での発表は初めてで緊張しました。ですが会場の雰囲気明るく、たくさんの方からお声掛けをいただきリラックスして発表することができました。一日を通して勉強になることがたくさんあったため、今回学んだことをこれからのソーシャルワークに繋げていきたいです。



(徳島県立海部病院 丸山 真由)



「滞日外国人等の医療・メンタルヘルスに対応したソーシャルワークの構築」に参加して
(高知医療センター 藤井しのぶ)

日時：令和6年3月9日(土) / 会場：日本女子大学目白キャンパス百二十年館(東京都文京区)
主催：日本ソーシャルワーカー連盟(JFSW)

様々な機会日本で外国人支援の遅れを指摘されることから、ソーシャルワーカーの理解を深めるために開催された。東海大学の小貫大輔氏の講義では、初対面の参加者同士でブラジル式の挨拶(ハグをして頬を合わせる)をした。それは距離がぐっと近くなる感覚、包み込まれるような感覚で、異文化を理解する体験になった。また「アウトリダージ」という言葉に出会う。その意味は、今「他者」が自分の理解を超えているからと言って無関心ではられない時代にある。他者と向き合い、他者に共感したことを実際の行動に移すことを表すとのことだった。これは今話題のSDGsとつながり深く理解することにつながった。出産をめぐる考え方の違いから自宅で出産した例、日本では外国籍の子どもには就学義務がない実状、宗教的価値観から家庭で生理について話をするのができないため機会を喪失している学生の例など具体的な例が挙げられた。日本人にはない価値観を知り、それを理解しようとすることの重要性を感じた。港町診療所の沢田貴志先生の講義では、外国人をとりまく医療制度や課題について様々な事例を紹介していただいた。制度の狭間でこぼれ落ち、生きる権利や医療にかかる権利を阻害されている外国人は、SWがかかわる支援の対象であると理解できた。多くの方はソーシャルワーカーにたどり着いていないということに気づく必要がある。制度を利用することができない理由の背景にあるものや、見えないものを見ようとしなければ問題の核心にたどり着けないということが語られていた。結核にかかり帰国を求められている技能実習生、昼休みにバイク事故で受傷し医療費を払えず医療につなげることができない外国人留学生、政情不安定な国から来たが保険が作れず手術が受けられない例など、具体的な事例を通し、法律・制度・協力団体をはじめ、課題をとらえ支援していく糸口を考えることができた。多くのケースで複雑な問題が絡み合っていることがわかり、その視点をもって支援することが重要であると感じた。最後の大正大学 鶴川晃氏の講義では、外国人のソーシャルワークを取り巻く言葉の定義や資格についてなど基本的な項目の確認をしたのち、自分が難民になることを想像するワークであった。自分ならSWに何を伝え、相談するか必死に考える体験をした。今自分の目の前に難民となった外国人が座ったらと自然に考えることができた。グループワークの全体シェアを通して様々な視点や支援のヒントになるものを確認することができた。特に文化受容は大きなストレスになるということや、宗教への配慮の必要性、メンタルヘルスへのアクセスがしづらい実状を詳しく知ることができた。また日本人が現在提供しているサービスや資源が難民や避難民のニーズにマッチしているかとの投げかけが意義深かった。研修全体を通して、まず自分が知らないことがこの分野には多くあるとわかった。とりまく制度や法律に関連したものだけではなく、価値観や考え方、他国の文化を尊重することなどである。ある外国人が抱えるひとつの課題が次の課題を生じさせ、また次の課題を所持させる。複雑に課題が絡まりあい、より困難性が高い状態が生じている構造を理解できた。法律や制度を熟知しておかないと、様々な権利侵害をひっかけることすらできないと痛感した。今すぐできることはとにかく知らないことをひとつひとつ調べて理解すること、仲間と共有すること、病院にいるSWとしてどのような役割を果たしていけるか考え、取り組み始めることだと考えた。外国人の支援の根底にある価値は「人の尊厳を守る」ということであると感じた。ソーシャルワーカーが有益な社会資源になれるかはこれからにかかっていると思う。

高知市在宅医療・介護連携推進委員会よりお知らせ

高知市では2017年2月より、医療や介護・福祉の専門職種等による「高知市在宅医療・介護連携推進委員会(以下、「推進委員会」という。)」が設置され、在宅医療・介護連携の推進を目指して取り組みを進めております。これまで『在宅(療養)生活支援リーフレット～あなたの「家にかえりたい」思いをサポートします～』を作成し、在宅療養を支える在宅医療・介護について知っていただく取り組みや、毎年ケアマネジャーを対象としたアンケート調査を実施し、在宅で看取ろうとした方や、看取った方は、年々増加傾向にある現状がわかり、病状が変化する短い期間の中でケアマネジャーとしての役割や支援内容に悩むといった意見がありました。推進委員会においても、在宅での看取りは病状や症状が変化し、本人や家族の意思も変化するため、多職種が経過時期を共有し、各職種の役割を確認・調整しながら連携して支援していくことが重要であり、そのためにも、支援する際の経過時期別の役割分担・連携体制づくりを明確にすることが必要との意見が出されました。そこで、推進委員会では、在宅で最期まで過ごすことを希望される方を多職種で支えることを目的として、「在宅看取りにおける経過時期別の連携シート」を作成しました。実践や研修の場面で、ご活用いただければ幸いです。

『在宅看取りにおける経過時期別の連携シート』

- 高知市地域共生社会推進課のホームページ（ダウンロード可）
- ホームページからのダウンロードが難しい場合には、下記までご連絡ください

連絡先；
〒780-8571 高知市本町 5 丁目 1-45
高知市地域共生社会推進課 担当：大黒、朝比奈
電話：088-821-6513
FAX：088-821-7230

『会員動向』

氏 名	種 別	内 容
千頭 賢子氏	退 会	正会員 高知県地域生活定着支援センター
浜田 睦子氏	退 会	正会員 同仁病院
門田 美由希氏	退 会	正会員 高知県社会福祉士会
大谷 朝子氏	退 会	正会員 土佐病院
小松 千花氏	退 会	正会員 自宅
武田 至之	退 会	正会員 自宅
吉井 毅氏	退 会	賛助会員 社会保険労務士よしい事務所
荻野 賀子氏	変 更 届	正会員 氏名変更
谷内 光代氏	変 更 届	正会員 住所変更
本多 碧	変 更 届	正会員 住所変更

次回理事会：R6 年 4 月 11 日（木）19：00～ リモート ZOOM ミーティング

『お知らせ』

※事務局へ届いている冊子を掲載します

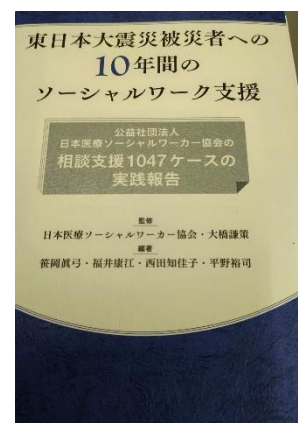
「東日本大震災被災者への 10 年間のソーシャルワーク支援」

公益社団法人 日本医療ソーシャルワーカー協会の

相談支援 1047 ケースの実践報告

監修：公益社団法人 日本医療ソーシャルワーカー協会

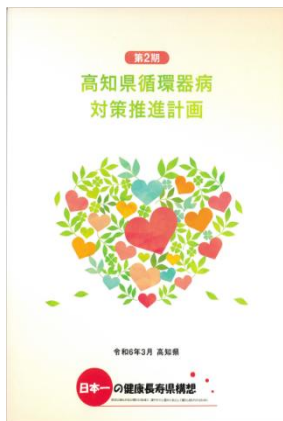
編著：笹岡真弓・福井康江・西田知佳子・平野裕司



「第2期高知県循環器病対策推進計画」

健康寿命の延伸を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法第11条に基づき、本県の循環器病対策を計画的かつ総合的に推進するため策定です。

高知県健康政策部保健政策課



★MSW 通信への記事投稿お待ちしております！

会員で共有したいことや全国のソーシャルワーカー仲間、関係者、国民にお伝えしたいことがあれば先ずはご相談ください。

送付先は通信 yahoo アドレス kochimsw@yahoo.co.jp

編集後記

今年の高知の桜は久しぶりに開花宣言日本一番を奪回！それだけではなく、花の咲き具合まで例年以上に鮮やかだったような。3月初旬以降、寒桜からはじまりソメイヨシノまで見事に高知発日本列島を彩りました。また桜と隣り合わせの草花もお互いが尊重し合っているかのように見事な情景を生み出していましたね。これからは緑と青の美しい夏の高知に向かいます。法制度と報酬の改定で忙しいからこそ身の回りに目を向け、癒されることに気づきます。



